

千葉県衛生研究所 情報

Health 21

この情報誌は、公衆衛生に関する身近な話題、情報をお知らせするものです。

— 目次 —

発刊にあたって	千葉県衛生研究所 所長	水口 康雄
トピックス	結核緊急事態を考える 所長	水口 康雄
千葉県衛生研究所の業務と組織	疫学調査研究室	市村 博
食品衛生検査施設における業務管理	食品化学研究室	佐伯 政信
千葉県衛生研究所 F A X 情報サ - ビス	疫学調査研究室	小倉 誠

発刊にあたって（ご挨拶）

水口 康雄（千葉県衛生研究所所長）

衛生研究所とはいったいどのような仕事をしている所なのか、時に新聞などでその仕事が断片的に報道されることはあっても、詳しい内容をご存じの方はあまり多くはないと思います。このような現状にかんがみ、既にいくつかの県の衛生研究所においては、仕事の内容の紹介や、その時々の特ピックスなどについての解説を行うための広報紙を発行しております。そこでこの度、千葉県衛生研究所でも遅ればせながら情報誌、「Health 21」を発行することになりました。タイトルは21世紀をにらんで、その時々マッチした情報をわかりやすい形で提供して行くという考えでつけられたものです。

予算が限られていることもあり、どのような人達を念頭に置いた紙面づくりをするか、年に何回発行するか、発行部数はどのくらいが可能か、などについて議論した結果、当面は、保健所職員、病院職員、保健センター、市町村の保健関係の業務に携わる人達などを主な対象に、年数回の発行ということで考えて行くことになりました。皆様方に少しでも役に立つような内容のものにするべく、これから努力して参りますが、できますれば読者の方々からのご希望やご意見も頂き、よりよい紙面を作って行きたいと考えております。

昨年、千葉県の衛生研究所は創立50周年を迎えました。それを記念して21世紀の衛生研究所に何を期待するかという題のシンポジウムを開催いたしました。そのときに数多くの注文や期待が関係各方面から表明されました。それらのご意見を取り入れながら、頼れる衛生研究所、期待を裏切らない衛生研究所たることを目指して努力して行きたいと考えております。皆様方のご支援とご鞭撻をお願い致します。

結核緊急事態を考える

水口 康雄

最近、新聞やテレビなどで頻々と報道がなされるようになりましたが、結核がここにきて大きな注目を引いています。その主な理由は、これまで1960年代から80年代にかけて順調に減少してきた患者発生数(新登録患者)が停滞状態となり、特に一昨年度、僅かではあるが増加に転じたということが挙げられます。それと同時にあちこちから集団発生が起こったという報告も聞こえてくるようになりました。このような状況の下、これを放置するわけにはいかないと、厚生省は結核緊急事態宣言を発令致しました。結核は過去においても現在でも日本のみならず世界で最も重要な感染症であり、事態は決して安心できる状態にはないことは、専門家の間では周知の事実でしたが、この緊急事態宣言でやっと一般国民や医療関係者にも危機的な状態の認識が芽生えてくることになればと考えています。

千葉県における、この5年間ほどの結核の状況を表に示しておきます。平成8,9年に一旦減少傾向に入ったかと思われた数字が、平成10年には再び増加に転じていることがわかります。中でも新登録患者の数はここ10年ほどの間、平成9年を除いてはほぼ1,500

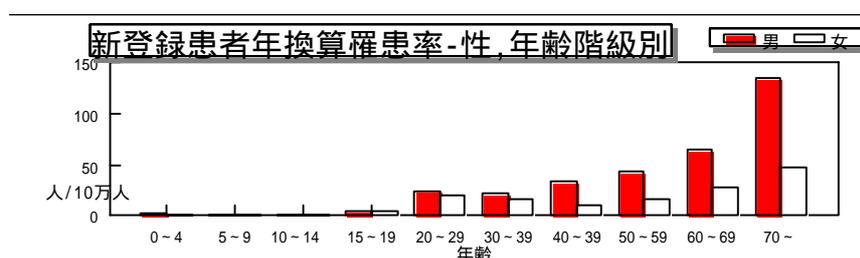
人台を維持しており、殆ど変わっておりません。要するに結核になる人の数は決して少なくなっているわけではないのです。また、患者さんは、図に示すように、高齢者、特に男性に多い(男女比 約2対1)ことが明らかですが、若い人も決して安心はできません。特に20代の女性の罹患率は、30~50代の女性より高いことが心配されています。20歳代の女性に何故高いのかについては、はっきりしたことはわかっておりませんが、ダイエットなど、栄養の不足や偏りがあるのかもしれませんが。更にまた、この2~3年の間に、県下でいくつもの集団発生の事例があったことが報告されております。集団感染などはどこか遠いところの話と考えてはいけません。集団感染等で発病者が出る場合、その周辺には少なくともその5~6倍の感染者いるものと考え、徹底的に調べるのが重要です。

紙面の都合で内容は述べられませんが、厚生省の発表した緊急事態宣言には、地方自治体、医師会および病院関係者、老人関係施設、国民などが結核の問題を再認識し、それぞれの立場で対策の推進に取り組むよう要請がなされています。

我が国は過去に結核対策で目覚ましい効果をあげてきたという実績があります。ここで再びそれを思い出して取り組むことにより、結核が本当の意味での過去の病気となることを期待したいと考えています。

千葉県における結核の現状

	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
死亡者数	95	104	131	96	90	118
新登録患者数	1,573	1,507	1,575	1,476	1,376	1,510
登録者数	1,943	1,980	1,941	1,764	1,660	1,687

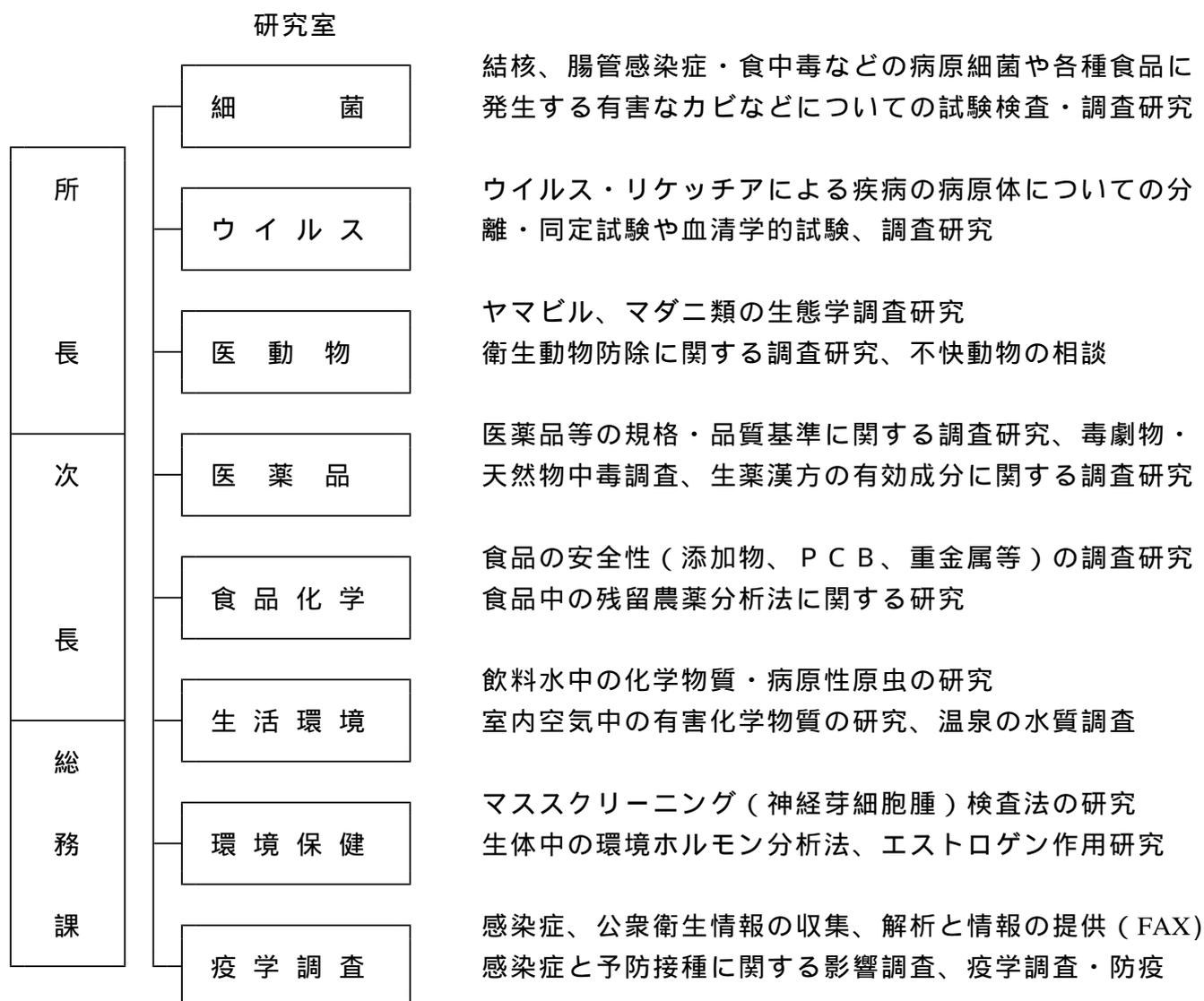


千葉県衛生研究所の業務と組織

私達の衛生研究所は、本年で創立50周年を迎えました。近年、わが国の科学・工学技術面での進歩は著しく、社会・経済面での発展に伴い、私達を取り巻く環境は著しく変化をし、県民の健康や生活環境について、時代の進展と平行して豊かで健康な生活の維持、増進をはかるうえで種々な問題が生じてきました。こうした社会のニーズに的確に対応するため衛生研究所は、公衆衛生、保健、環境行政の科学技術面での中核機関として、調査研究、試験検査、情報の解析と提供、関係職員の研修などを中心に行なっています。

組織と調査研究

衛生研究所には現在8研究室1課があって、職員は総員42名で業務を担当しています



(疫学調査研究室 市村 博)

食品衛生検査施設における 業務管理

(GLP:Good Laboratory Practice)

GLPが食品衛生法(平成9年4月1日施行)で定められ、食品を検査している公的な試験検査機関に導入された。この、GLPとは食品の試験検査で最も正しい結果を恒常的に出すための体制の制度化である。まず、検体の収去 検査機関までの輸送 検査機関での受付 試験検査法(原則的に公に認められた試験

法) 結果の報告までの体制を整え、同時にこれら体制での責任を明確にする。

これは常に正しい結果を出せる仕組みを確立し、さらにこれを維持、継続できる仕組みを作り上げる事である。この制度は、米国のFDA(食品医薬品局)で1979年に医薬品の申請の際、実験結果を判定するために法制化された。日本では、1982年に厚生省で医薬品の安全性試験で実施されている。今回、食品関係に導入され、この制度を実施することにより、試験検査の結果は国内はもとより、国際的にも信頼性の評価が得られるようになる。

(食品化学研究室 佐伯 政信)

千葉県衛生研究所 FAX 情報サービス

FAX 情報サービスとは、今私たちの身近なところで流行している病気(感染症)のことや、保健所からのお知らせなど、暮らしに役立つ公衆衛生を中心とした情報をお手持ちのFAXを使ってご利用いただけるシステムです。

具体的な内容は、

千葉県及び全国の結核・感染症発生動向

結果(感染症の発生状況)

千葉県内の保健所などの広報誌

諸外国の公衆衛生に関する情報

情報の取り出し方は

アナウンスに従ってメニューを取り出す。

メニューを読んで取り出したい情報を選ぶ。

もう一度FAXから電話をかけ直す。アナウンスに従って、欲しい情報を取り出す。

FAX 番号は

043-266-6806

と 043-266-6898

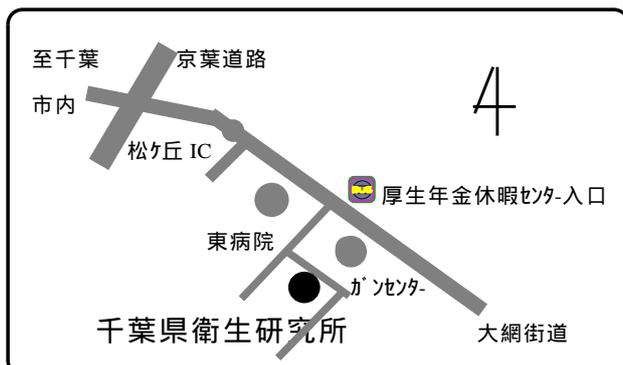
です。

*お手持ちのFAXからトーン信号(ピ・ポ・パという音)が出ていることを確認してください。詳しくはFAXの取扱説明書をご覧ください。

この情報に関するお問合わせ

千葉県衛生研究所 疫学調査研究室

043-266-7996 (担当:小倉 誠)



Health 21 No.1
千葉県衛生研究所情報 1999.9.15
編集・発行 千葉県衛生研究所情報誌
編集委員会
事務局:疫学調査研究室
260-8715 千葉市中央区仁戸名町 666-2
Tel: 043-266-6723 Fax: 043-265-5544